

湯河原ロータリークラブ



WEEKLY REPORT

心の中を見つめよう
博愛を広げるために

第 2423回 例会

平成23年11月11日(金)
天候 雨
合唱 我等の生業
四つのテスト

会長 伊藤 伸之
幹事 望月 博文

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥 1-14-25
中川方 TEL/FAX 0465(62)3056
例会場 静岡県熱海市泉 107/TEL0465(63)3721
ニューウェルシティ湯河原
例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

今週8日の火曜日第9グループの会長、幹事会が開かれました。その報告です。

議題

- ① ガバナー補佐連絡会議報告
10月15日行われた選挙人会の結果報告(選挙人数98名、出席77名)
2013年RI規定審議会提出立法案 賛否投票結果
1. 決議案(小田原) R財団の補助金・奨学金プログラムは現在ロータリー関係者を除外しているがこれに対する例外規定の検討をお願いしたい件
賛成73 反対4 白票その他0
2. 決議案(茅ヶ崎湘南) ロータリーの綱領第2項に掲げる職業に関する規定を真摯に受け止め、ロータリアンの職業奉仕の指針として奨励するようRI理事会に要請する件
賛成75 反対2 白票その他0
3. 決議案(茅ヶ崎湘南) ロータリーにおいて「ロータリーの綱領」が有している重要性を改めて強調、推進されることをRI理事会に要請する件
賛成75 反対2 白票その他0
4. 決議案(第2780地区) ロータリーの広報をテーマとした月間を設けることを検討するようRI理事会に要請する件
賛成75 反対1 白票その他1
5. 制定案(大和中) 会員身分の存続について改正する件
賛成73 反対4 白票その他0

新会員の集い
2月10日(金)~11日(土)ニューウェルシティ
新会員及びクラブへのアンケート依頼

地区社会奉仕委員会より

アンケート依頼

GSE受け入れ

第9グループ4/1~4/5 箱根、東京見物

② IM 詳細決定

③ その他 第9グループの会員名簿作成
原稿提出期限 11月22日

幹事報告

ガバナー

1. 「家族月間」(12月)卓話について
申し込み締め切り 11/18

米山奨学生

1. ハイライト140

寄付金速報—米山月間へのご協力に感謝

スマイルBOX

望月博文君 会員誕生日 11/13

望月博文君 結婚記念日 11/7

出席報告	ゲスト 0名 ビジター 0名		
	会員 26名	欠席 5(4)名	出席率 95.45%
	前回の修正出席率 83.33%		前々回の修正出席率 96.00%

石川雅雄君

「安藤広重は陰陽師だった」

広重は、安藤源右衛門（将軍直参の御家人で幕府定火消同心）の長男として寛政 9 年（1797）に生まれ徳太郎と名付けられた。

徳太郎は、13 歳のとき、両親が相次いで他界した。

彼は元服に満たなかったが家督を継いで重右衛門と改名した。下級武士で生活は苦しく、15 歳の時、美人画で人気の高い歌川豊広の弟子になり、豊広の「広」と重右衛門の「重」として「広重」と名乗った。

27 歳の頃、祖父が晩年にもうけた子「仲次郎」に家督を譲り、絵師となり、画業に専念した。歌川豊広が亡くなると二代目を襲名するようにと名誉ある誘いを固辞し、恩師の美人画でなく、風景画の新境地に挑んだ。

当時、風景画では、葛飾北斎の「富嶽 36 景」が大ヒットしていたが、広重の写実的な風景画が日本橋をかわきりに旅行ブームと相まって江戸中の話題をさらった。

天保四年（1833）「真景東海道五十三次続画」が上下二冊の画帖として出版されヒットした。

広重は、新しい仕事をこなしている中、突然髪を剃り、50 代で法体となった。

又、彼には歌川豊広の他に、もう一人の師匠がいた。

大岡雲峯という旗本で南画家であり道教学者であった。

彼は、神仙思想を中心に陰陽道の呪術まで学んだ。

大安、仏滅、干支、厄年、節分節句、七夕などの年中行事や晴天を祈願するテルテル坊主などは、陰陽思想から来ている。

ここに 4 年毎 易暦に換算した年表を作ってみると

広重誕生	1797 年	宿番 1	日本橋	とすると
	1801 年	〃 2	品川	
	1805 年	〃 3	川崎	
			↓	
広重死去	1857 年	〃 16	蒲原	
	2013 年	〃 55	京都	

「真景東海道五十三次」を描いたのが、天保 3 年（1832）、東海道五十三次を易暦に当てはめると、その年の前後に事件が起きている。

ここでは広重死去の年宿番 16「蒲原」と最終年 2013 年「京都」を取り上げてみる。

「蒲原」図一 夜の雪に埋もれた宵の光景は最も優れた作品と言われているが、駿河湾に面した温暖な地に大雪が降った記録がない。しかし安政 3 年（1856）7 月～9 月にかけて真夏の江戸に雪が降った史実がある。

安政 4 年に江戸でコレラが大流行し、死者が 3 万人出た。

広重はコレラに感染し、62 歳で亡くなった。

24 年先の大雪と自身の死を予見していた。

静寂を絵の中で傘を頭からかぶる様にして半開きにさし、杖をつき、宿場へと歩く老人は冥界へ入ろうとする広重自身ではないか。

次に、2013 年に当たる 55 番目が「京都三条大橋図」である。

この図は山が二つに描かれているが、手前は東山であるが後ろの赤い山は現実にはないのであり、東の方の山を想像すると浅間山か富士山である。

赤い山は噴火を意味している。

近年富士山は休火山から活火山へと指定が変えられた。2013 年に富士山が噴火することを暗示しているのではないか。

富士山は過去 2000 年の間に 75 回噴火している。

噴火のペースでいくと 30 年に 1 回であるが、前回の噴火は宝永 4 年（1707）であるので実に、300 年以上噴火していない。

地下に蓄積されたマグマの量は東京ドームの 500～1000 杯分と言われている。

もし本当に噴火したら、

家屋全壊 2000 戸以上

農業被害 9000 億円

観光業被害 1000 億円

総額 2兆5000 億円になると予想される。

しかし「広重の予言」の筆者 坂野康隆氏の想像であると一概には信じ難い。

3 月 11 日の東日本大地震も予想しないで起こったわけだから常日頃用心深く生活をしていくことが肝要だと思います。